

研究主題

# 「学びに向かう力」の育成

～「主体的な学び」へ導く学習指導の工夫～

本校は平成30年度・令和元年度熊本県教育委員会の「熊本の学び」研究指定を受け、学力向上プロジェクト研究指定校として、確かな学力の充実に図るために研究を進めて参りました。1年目は「確かな学力を支える『学びに向かう力』の育成」を目指して、国語科・算数科を中心に研究を進めました。2年目は「熊本の学び」総合構想会議の提言を受けた「熊本の学び」推進プランの方針に基づき「学びに向かう力の育成～『主体的な学び』へ導く学習指導の工夫～」という本校テーマを掲げ、「学びに向かう力を高めている児童の姿」や「主体的な学びに向かう児童の姿」を目指す児童の姿として研究を進めて参りました。研究につきまして、まだ十分とは言えませんが、ご参会の皆様からのご指導、ご助言等をいただき、今後も「熊本の学び」が実現する児童の更なる確かな学力の向上へとつないでいく所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

令和元年10月29日（火） 大津町立室小学校

## Ⅰ 研究主題の分析

### 「熊本の学び」が目指すもの

問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める熊本の子供

自分の学びの姿を知り、日々たゆまず、自ら学ぶ熊本の子供

### 「学びに向かう力」を高めた目指す室小児童の姿

- 学習の得意・不得意や理解度の差に左右されずに、一生懸命に考えたり、伝えようとしたり、聞いたりしようとする姿
- 自分の考えを持ち、他者の考えにも耳を傾け、よりよい考えを持とうとする姿

### 「主体的な学び」に向かっている室小児童の姿

- わくわくしている姿
- 試行錯誤しようとする姿
- 理解を深めている姿
- 学びを広げようとする姿

## 2 研究の仮説・視点

### 研究の仮説

児童の実態、単元の全体のデザインを熟慮した上で、児童を「主体的な学び」に導く授業の工夫を実践・蓄積することで児童の「学びに向かう力」を育成することができるであろう。

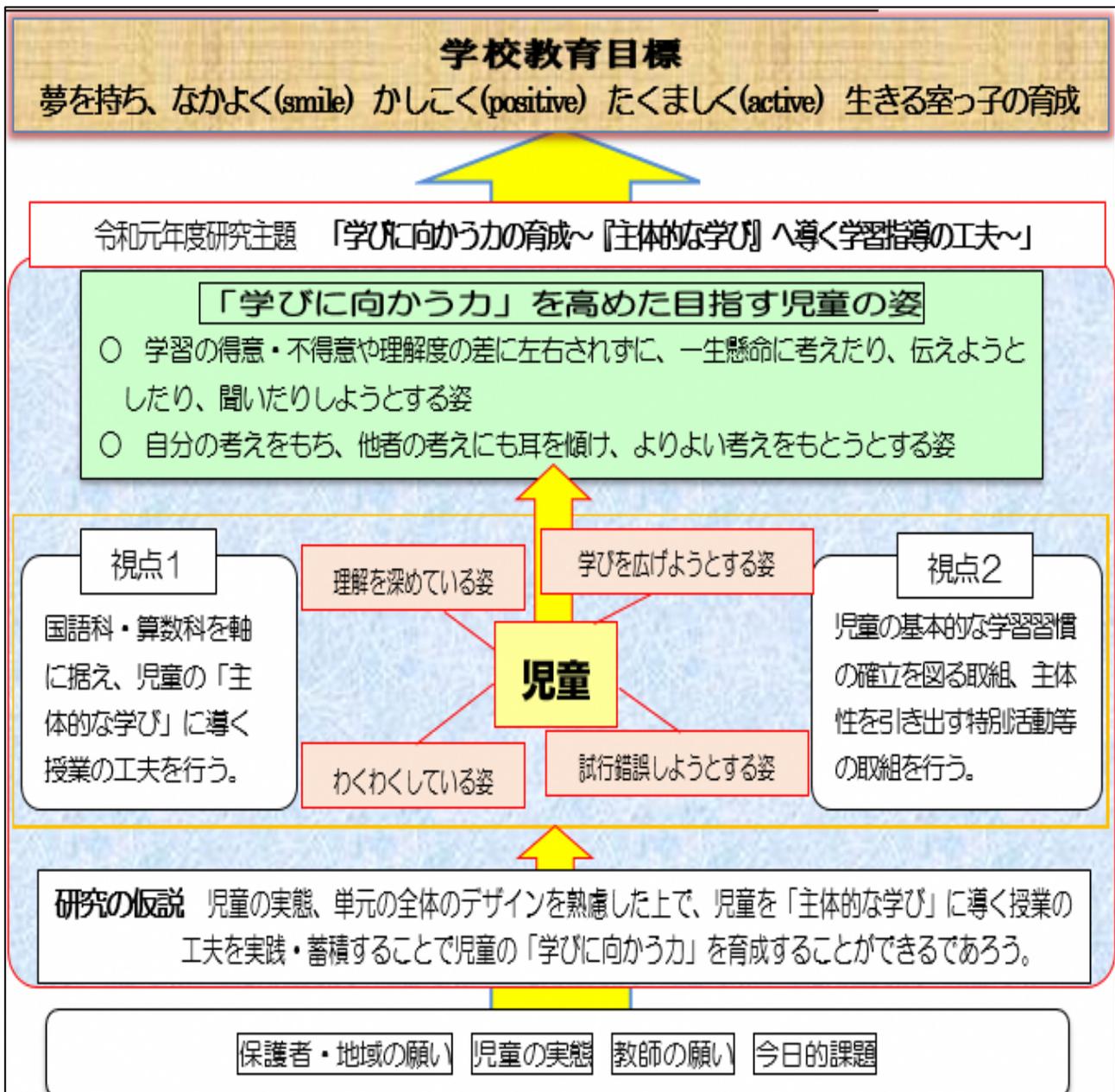
#### 視点1

国語科・算数科を軸に据え、児童の「主体的な学び」に導く授業の工夫を行う。

#### 視点2

児童の基本的な学習習慣の確立を図る取組、主体性を引き出す特別活動等の取組を行う。

## 3 研究の構想



## 4 視点1に関する研究の内容

- 1 単元終了後の児童の姿をイメージし、教師が何を教え、児童に何を話し合わせるかを明確にした単元デザインを工夫する。
- 2 児童の「なぜ」が生まれる導入を工夫する。
- 3 児童の言葉が生きる展開を工夫する。
- 4 児童が何を学んだか、何ができるようになったかを自覚できるまとめ・振り返りを工夫する。

### 授業全体に関わる研究の内容

- ・教材（問題、本文等）の工夫をし、思考のズレを引き出す。
- ・児童の思考（表現）の流れが見える板書を行い、1時間の学習を視覚的に捉えさせる。
- ・児童には自分の思考を必ず紙面に残させる。（言葉、図、絵、サイドライン 等）

### 国語科の研究の内容

#### ①問題解決型のめあてを設定する

「なぜ〜か。」「どちらか〜か。」「一番〜はどれか。」等と表現することで、授業のねらい、児童が考えるべき内容を焦点化する。児童同士の思考のズレが表面化し、話し合いの必然性を生む。

#### ②単元に位置付ける言語活動を工夫する

単元前半では、教材文を基に読みの技能を身に付けさせる。単元後半には、その獲得した技能を生かして他の教材文を読む。

### 算数科の研究の内容

#### ①問題設定の工夫を行う

- ・情報過多や情報不足の問題設定
  - ・既習の内容と比較した問題設定
  - ・一定の規則性を持たせた問題設定
  - ・出合ったことのないような文脈の問題設定
- 既有的知識・技能とのズレ、児童同士の思考のズレを引き出す。

#### ②つながりを意識した発問と板書を工夫する

「〜さんが…と言った気持ち分かる?」、「この数は何を表しているの?」、「この図を表している式はどうなる?」など、児童同士・式・図・表・絵・言葉等をつなぐ発問を行い、学習の流れが分かる板書を行う。

## 5 視点2に関する研究の内容

児童が安心して発言したり、尋ねたりできる、違いを認め合える学級づくりに取り組む

### 取組例：朝の会

健康観察を中心に、教師が児童の様子を把握する。また、児童同士も互いのことを知り、学級での一日の生活に向かう気持ちを持たせる。

### 取組例：帰りの会

一日の出来事・学習を学級で共有する時間を設定し、一日の学びから次のくらしを考えるような振り返りを行う。

### 室小学校人権教育推進の視点

部落差別をはじめあらゆる差別をなくすために、身の回りの差別に気付き、差別をなくす行動をする子どもたちを、すべての授業やくらしの中で育てる。

## 家庭学習と読書の習慣化を図る取組を行う

### 取組例：家庭学習の手引きの活用

学年部で右のような家庭学習の手引きを作成し、年度始めの家庭訪問にて配布する。また、学習時間の量的確保及び児童自身の学習時間に対する意識付けのため、音読カード等に家庭学習時間を記録する取組を行った。

### 取組例：読書時間の確保

朝自習や給食準備の待ち時間等を利用した読書活動を日常的に行う。

《 自主学習の手引き 》  
 ノートに日付と学習開始時間を書いて、  
 自筆スタート！

3つのポイント！  
 ○ていねいに  
 ○バランスよく  
 ○書き直し

基本の学習（例）～2つずつ学習～

- 漢字の練習（読みや送りかなも、いろいろな使い方）
- 計算練習（丁寧に書く）
- 授業の復習（ノートにもう一度やる、まとめ直す）
- 復習（丁寧に書く）
- 日記 など

ボーナス学習（例）～工夫して学習～

【国語】

- 言葉の意味調べ、短文作り
- テーマを決めた作文や意見文
- 新聞記事を読んで（複写して）、自分の意見を書く
- 慣用句、ことわざ、四字熟語調べ
- ミニ読書感想文やおすそめんの紹介
- ローマ字の練習

【算数】

- 授業でやった問題を数学を変えてもう一度やる
- 教科書やプリントの問題をノートに写してもう一度自分でやる
- 文章題や問題作り

【社会】

- 都道府県や県庁所在地
- 大型な産業についてまとめる
- 人物調べ、年表作り、時代のポイントをまとめる（6年生歴史）
- 2ページに学習内容を新聞風にまとめる

【理科】

- 教科書を見てポイントをまとめる
- 興味のあることを調べたり観察したりしてまとめる
- 〇〇について大発見！（図や植物などの自然や科学のことを書き調べ）

## 特別活動、総合的な学習の時間、生活科など児童主体となる取組を行う

### 取組例：総合的な学習の時間、生活科の学習計画の作成

昨年度、各学年において、校外学習やゲストティーチャー等の情報について指導計画とは別にまとめた。今年度はそれを引き継ぎながら、児童の実態に応じて学習計画を立て、進めている。

総合的な学習の時間・生活科における年間計画の見直し（5年級）【2019年2月作成】

注）①～④は、生活科が、総合的な学習の時間（生活科の活動）となることを目指し、年間計画を視察する。その他科目との関係も考慮する。学年テーマ（大塚）は、①～④（7時間）

月	単元名、(総合的な学習の時間)の単元名	学習課題、調べ、まとめる方法	時数
4月	社会1 (JA 指導員 授業参観)	朝日記事等	時: 1
5月	(運動会)		
6月	生活学習 (A 情報センター指導員)		時: 2 人: 5 日: 10
7月	(人権月間) 親子のくらしと健康	生活学習 (個別学習)	時: 5
8-9月		「水素に誘われて子ども科学」(理科学習)	時: 6

Enjoy 特活

特別活動通簿 Vol. 2  
 令和元年5月29日(水)  
 文責：野口 貴彦

### 学級会の準備

運動会も大成功に終わり、そろそろ子どもたちによる学級会【学級活動(1)】を輝きたいと考えておられる学級もあるのではないでしょうか。そして、もう既に開かれた学級もあるのではないのでしょうか。

学級のみならず話し合っただけの学級会、学級のみならず協力して実行していくことは、子どもたちにとって、とても有意義な活動になります。この活動を通して、学級への愛着を深め、所属感・達成感を育むことができます。また、協力していくことで、望ましい人間関係を築き、社会性や適性を身につけていくことも可能です。

そこで今回は、学級会を開くまでの準備について、ご紹介します。

☆学級会【学級活動(1)】のサイクル

- 事前（課題の発見、議題の決定）
- 本時（話し合い活動・学級会）
- 事後（実践活動、振り返り）

この一連のサイクルの中で、週と集団を高めていくのが話し合い活動です。



### 取組例：特別活動の推進

年度始めの校内研修では特別活動についての研修を行い、係活動等を通じた学級経営などを職員全体で学んだ。それ以降も、特活担当から、職員向けの通信が発行され、学級会の在り方等についても学び、より児童の主体的な活動につながるよう取り組んでいる。

# 6 授業の実際

## (1) 算数科の授業実践【2年 かさ (啓林館)】

### ① 単元終了時の目指す児童の姿

普遍単位のおよさに気づき、身に付きつつある量感を基に、目的に応じて測定器を使い分けながらかさをは測ることができる児童

### ② 指導計画 (7時間取扱い)



時間	学 習 活 動
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>• かさをは比べる時に「何の何杯分」で調べる活動を通して、「同じ大きさの入れ物で測ると比べられる」ことを見出し、かさの単位「L (リットル)」について知る。</li> </ul>
2 3 4 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 L ますでは、正確に表せない量から、さらに小さな単位が必要であることを見出し、「dL」や「mL」について知る。</li> <li>• 「mL」、「dL」、「L」の関係を理解する。</li> <li>• 身の回りのかさで「mL」で表示されているものを探す。</li> <li>• ボウル等の身近な入れ物に1 L と思うかさだけ見当を付けて水を入れ、1 L の量に関心をもつ。</li> </ul>
6 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>• これまでの学習を基に、いろいろな入れ物に入るかさを予想し、適切な測定器 (dL ますやL ます等) を判断して、実際に測る。「OLより多そう」や「OLくらい」等の概則の見方を獲得する。</li> </ul>

### ③ 具体的な授業実践例 (本時6 / 7)

**1 かさを測ってみたい身近な入れ物を児童が選び、かさを予想する。**

導 入



児童が測定したい入れ物を選択したことで関心が高まり、2L 5dL や2L より多いという予想を立てることができた。かさの量を予想したことで、目的に合わせて測定器を選択する見方・考え方へとつながった。

---

**2 測定器 (L ますとdL ます) を自分たちで選択し、実測する。**

**3 実測した結果を出し合う。**

展 開



2L とちょっとでした。

2L より多かったです。

2L 3dL でした。

2L 測って、1dL が3回だったからです。

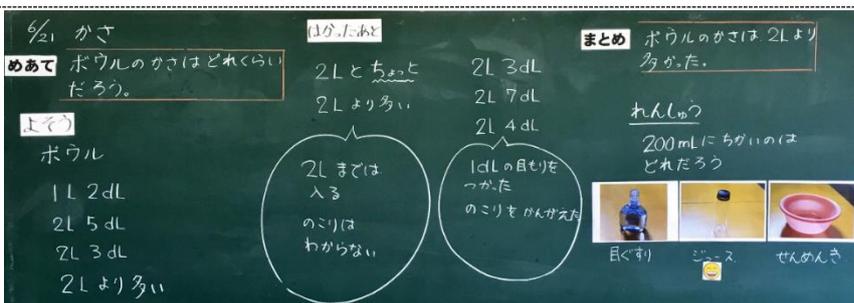
ぼくは、2L 7dL でした。(L ますで測って3回目か) 3dL あまったからです。

ボウルに入る水のかさという1つの事象に対して、様々な表現を引き出した。概則的な見方・考え方を引き出すことができ、加法や減法とつなげた見方・考え方も引き出した。

---

**4 本時のまとめを行い、適用題に取り組む。**

ま と め ・ 振 り 返 り



(2) 国語科の授業実践【3年 ゆうすげ村の小さな旅館（東京書籍）】

① 単元終了時の目指す児童の姿

叙述に即して想像を広げながら物語を読んだり、場面と場面とを関連付けて読んだりして、物語のおもしろさに気付くことができる児童

② 指導計画（9時間取扱い）

時間	学 習 活 動
1 〜 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「しかけがある物語を友だちに紹介する」という学習のゴールをつかむ。</li> <li>・教材文を読み、疑問に思った点をまとめ、出し合う。</li> <li>・時間の移り変わりを表す語句を基に、場面を分ける。</li> </ul>
3 〜 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面ごとに叙述を根拠に物語のしかけを見つける。 （課題①）「なぜ美月さんは旅館の手伝いに行ったのか。」 （課題②）「なぜつぼみさんやお客さんの耳がよくなったのか。」 （課題③）「なぜつぼみさんはエプロンのつつみをおいてこっそり帰ったのか。」</li> <li>・場面と場面を関連付けて、読みを深める。 （課題④）「なぜ美月さんは手紙に『ウサギの』と書いたのか。」</li> </ul>
7 〜 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語のしかけにふれながら、自分のお勧めの本の紹介文を書き、友だちと交流する。</li> </ul>



③ 具体的な授業実践例（本時4／9）

導 入	<p>1 児童の疑問を基にめあて「なぜ、つぼみさんとお客さんの耳がよくなったのか」を設定する。</p>
展 開	<p>2 本文を読み、自分の考えを整理する。 3 めあてに対する答えを班で検討し、全体で議論していく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">             児童の初発の感想を生かして問題解決型のめあてを設定したことで、考えること・話し合うことが焦点化された。         </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">                 耳がよくなるまほうをかけたからだと思います。             </div> <div style="text-align: center;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">                 ダイコンずくしの料理を食べたからです。             </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                 まほうの効き目があるウサギダイコンを食べたからだと思います。             </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                 児童の「耳がよくなるまほうをかけたから。」という意見に対し、「どうやってまほうをかけたの？」等の意図的な問いかけによって、児童は叙述から根拠を述べる事ができた。             </div>
ま と め ・ 振 り 返 り	<p>4 本時のまとめを行う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">                 ① しんじん ② ウサギダイコン ③ ネベーター ④ まほう ⑤ 耳がよくなるまほう ⑥ 耳がよくなるまほう ⑦ 耳がよくなるまほう ⑧ 耳がよくなるまほう ⑨ 耳がよくなるまほう ⑩ 耳がよくなるまほう             </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">                 「つぼみさんとお客さんは、耳がよくなるまほうのまほうがあるウサギダイコンを食べたから。」             </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">                 ① つぼみさんとお客さんの耳がよくなったのさ。 ② まほう ③ 耳がよくなるまほう ④ 耳がよくなるまほう ⑤ 耳がよくなるまほう ⑥ 耳がよくなるまほう ⑦ 耳がよくなるまほう ⑧ 耳がよくなるまほう ⑨ 耳がよくなるまほう ⑩ 耳がよくなるまほう             </div> </div>

(3) 理科の授業実践【6年 生物どうしの関わり (大日本図書)】

① 単元終了時の目指す児童の姿

「食べ物」や「空気」を通して、人間も含めた生物どうしは絶妙なバランスの上で、互いの命を維持していることを捉え、自然環境を大切にしようとする児童

② 指導計画 (7時間取扱い)

時間	学 習 活 動
1	• 生き物が酸素を吸って二酸化炭素を出し続けると、地球から酸素がなくならないのか考える。
2 ~ 4	• 植物の葉に日光 (光) が当たった際の植物周辺の気体について、変化があるのかを予想し、気体検知管で調べる。 • 調べた結果を基に、分かったことを話し合いながら、空気を通した生き物どうしの関わりについて考える。
5 ~ 7	• 人や動物の食べ物の元をたどって、生き物どうしの関係を調べる。 • ミツバチなどの虫たちの必要性について話し合うことで、生き物どうしの関わりについて考える。



③ 具体的な授業実践例 (本時6/7)

**1 これまでの学習を基に、本時の学習課題を設定する。**

児童にとって身近なミツバチを課題設定の題材としたことで、関心が高まった。また「A:必要」「B:必要ではない」「C:どちらともいえない」の3つを提示したことで全員が自分の考えを持つことができた。

**2 「①必要ではない」「②どちらともいえない」「③必要だ」の3つの立場で考えを出し合う。**

ミツバチがいなくても (人間は) 生きていけると 思います。

ミツバチが多過ぎると困ると 思います。

植物が受粉するために、ミツバチは役に立っているから必要だと思 います。

**3 「もし、ミツバチがいなくなったら」という仮定の基、再度議論する。**

酸素が無くなると思います。もし、ミツバチがいなくなると植物が育たなくなるからです。

「もし、ミツバチがいなくなったら」という仮定の条件を設定されたことで、児童はミツバチの必要性を科学的に捉えることができた。

**4 資料を基にミツバチの必要性について考え、本時のまとめを行う。**

まとめ・振り返り

生物どうしの関わり  
ミツバチは 暮らしに必要なのか? (まとめ) ミツバチは 暮らしに必要な。

① 必要ない (2人)  
ミツバチがいなくても生きていける。→ さされたら痛い

② どちらともいえない (4人)  
はちみつはおいしい (ほかの蜜蜂がいれば) 多すぎると 毒 (町に出ている)

③ 必要だ (4人)  
受粉:  
はちみつのはち 蜂 (人) シロップ (蜂) 砂糖がけ

ミツバチがいなくなると? 酸素は? (受粉) × 農作物の70% → 食料の60% 人の体 (欠かす可) × コーヒー、乳製品 油脂植物 → 牛肉 (バター、レタ)

受粉させる 病気を治す方法開発中 対策? 農薬、殺虫剤

# 7 研究の成果と課題

**成果1** 3つの授業実践例から、導入で「思考のズレを引き出す」という視点1の取組は効果的だった。思考のズレを引き出すことで、児童の言葉が生きためあて（課題）の設定や、児童同士で話し合う必然性を生むことができた。また、国語科の授業実践例から問題解決型のめあても有効だった。問題解決型のめあてによって、考えることが焦点化され、全ての児童が自分の考えを持った上で、学級全体での話し合いに参加することができた。

**成果2** 過去2年分の熊本県学力調査の4年生以上において、国語4領域・算数4領域の全24項目で県平均値との比較を行った。下の表は県の平均値を超えた領域数である。（学年は平成30年度時点）

	4年生		5年生		6年生		合計
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	
平成29年度	1	0	3	2	2	2	10
平成30年度	1	4	2	3	3	4	17

**課題1** 単元全体での個々の児童の変容が捉えられるノート指導等の在り方が必要である。教師の児童に対する評価につながるだけでなく、児童自身が「どのように学んだか」や「どんな見方・考え方が身についてきたか」を自覚することにつながり、その結果、「学びに向かう力」のより一層の育成が期待できると考えられる。

**課題2** 「主体的な学び」を実現した姿、「学びに向かう力」を高めた姿を教師個々でどのように設定し、見取り、評価していくかを、本研究を基に、今後さらに深める必要がある。

「熊本の学び」の理念である「熊本のすべての子供たちが、『学ぶ意味』を問いながら、『能動的に学び続ける力』を身に付けること」を目指し、「学びに向かう力」の育成を研究主題として取り組んで参りましたが、研究を始めて2年、全職員が校長を中心に一丸となって研究を進めて参りましたが、まだ道半ばであります。本日の発表会の中で、皆様よりいただきましたご意見・ご指導を糧といたしまして更なる研究を推進していくことが子供たちの健やかな成長につながるものと確信しております。

これまで2年間にわたり、ご指導、ご協力いただきました熊本県教育委員会、菊池教育事務所をはじめ大津町ご当局、大津町教育委員会並びに本日ご参会いただきました皆様に心から感謝申し上げます。

## 参考文献

- 小学校学習指導要領（文部科学省）
- 小学校学習指導要領解説国語科編・算数科編・理科編（文部科学省）
- 「熊本の学びについての提言」～義務教育段階における学力の育成に向けて～
- 筑波発 読みの系統指導で読む力を育てる（筑波大学附属小学校国語教育研究部）

		令和元年度						平成30年度	
研 究 同 人	校長	末次 佐代子	教諭	後藤 健征	講師	鮫島 香織	教頭	榎田 雄二	
	教諭	佐藤 政臣	教諭	野口 貴至	講師	松本 直也	教諭	米村 知枝	
	主幹教諭	古川 忠司	教諭	吉田 美和子	非常勤講師	冨田 真由美	教諭	野間口 広美	
	教諭	三神 恭子	教諭	後藤 真里奈	非常勤講師	高本 麻里	教諭	上島 佳代	
	教諭	波多野 匠	教諭	冨永 悠真	校務	住吉 久美子	教諭	清永 邦宏	
	教諭	城 美穂	教諭	岡本 真由子	司書	筒井 恵子	教諭	米多 康輔	
	教諭	木下 敬夫	教諭	橋口 健太	学習支援	山本 加代	教諭	太田 嗣蔵	
	教諭	野上 千秋	教諭	山本 涼華	学習支援	後藤 由美	教諭	内田 武瑠	
	教諭	吉永 光加	教諭	池邊 正裕	特別支援指導	山森 晴代	養護教諭	野村 貴子	
	教諭	倉田 康行	教諭	木村 圭介	特別支援補助	林 紀子	講師	赤木 美文	
	教諭	松永 直紀	教諭	北里 友柄	特別支援補助	中原 佳奈子	講師	田村 和也	
	教諭	増永 登志子	教諭	福田 祐子	特別支援補助	溜島 佳子	特別支援補助	大川 利恵	
	教諭	小嵐 雄二	養護助教諭	河津 菜美	生活支援補助	嶋津 知恵	特別支援補助	齋藤 綾子	
	教諭	賤津 里美	栄養教諭	園田 美里	生活支援補助	榊 貴子			
	教諭	花田 和賀子	技術職員	長谷部 瑞穂	生活支援補助	松崎 仁美			
	教諭	横尾 直子	事務	寺地 冬花	生活支援補助	荒牧 由紀子			
教諭	徳淵 剛希	講師	岩田 浩平						